

## 第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

### 報告書資料 一般 - 36

学校名・団体名	福井県造形教育研究会
HPアドレス	<a href="http://zoukeifukui.com/htdocs/?page_id=13">http://zoukeifukui.com/htdocs/?page_id=13</a>
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	図工・美術教育のものづくり教育支援と心の教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>福井県は、ベテラン教員の大量退職の時期に加えて、学級の減少により美術教育専科教員が配属されない地域が増えていることから、図工・美術教育において教員の準備と技術が特に必要な木や土などの素材を使った造形活動がやりにくくなってきている。しかし、自然素材を使ったものづくりは心の教育に有効であり、素材に触れものづくりに親しむ素地は、総合的な学習の時間で扱う県の伝統産業や日本文化を机上の知識に終わらせないために重要であると考えている。本助成金では、こどもたちに素材と触れあう感動と、日本文化へのあこがれの種をまく授業を広げたいと考え、触れて感じる伝統文化鑑賞教材（木・漆・土）を1セット作成する。併せて、本県は図工・美術教育を充実させる手立てとして、幼稚園から高校までの連携した教育研究の組織である「福井県造形教育研究会」を立ち上げており、「造形ユニット」（「授業デザインシート」と呼ぶ授業記録と「道具・鑑賞ボックス」と呼ぶ教材支援の総称）を作成して、アイデアを共有し合い県全体で授業力向上を図ってきたので、本助成金で研究会独自のウェブサイト構築を図り、授業研究の情報交換の充実を図る。</p>	

○教材作成—土、木、紙に関する教材支援の「道具・鑑賞ボックス」作成

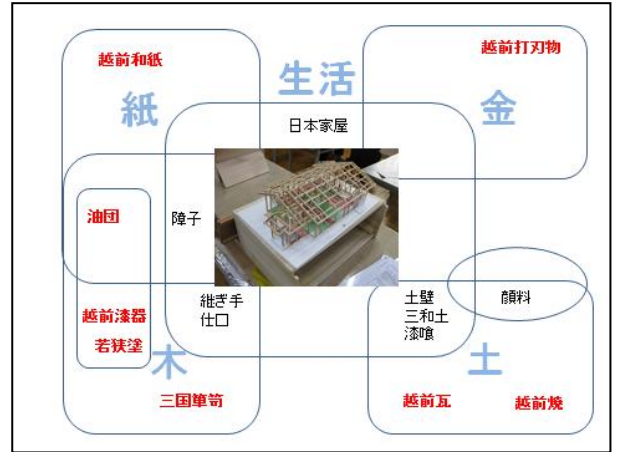
伝統産業の学習は特にその地域の小・中学校で盛んに行われているが、教材が共有されていないため、地域外の学校で取り組むことは難しい。

また、総合的な学習の時間の限られた時間の中では、短時間の体験学習、レポート作成、発表がセットになった授業内容が多いが、職人さんと実際に関わりながら体験する機会を得られない学校の場合、実感を伴った知恵や美術文化への愛好の心情につながりにくい課題がある。

総合的な学習の時間の伝統産業の体験学習の前に、図工・美術教育のものづくりの体験に裏付けられた実感を伴った感性の教育が重要であると考え。生徒が造形活動で「木」「土」「紙」「金属」の素材に触れるとき、日本文化とつなげる鑑賞を取り入れることで、素材に触れ作る喜びを味わった経験が日本文化を実感を伴って考えるきっかけをつくれるのではないかと考えた。

そこで、福井の7つの国指定の伝統的工芸品で使われている「土」「金属」「紙」「木」素材を日本家屋を中心に、生活の視点でつないだ鑑賞資料を作成したいと考えた。総合的な学習の時間で扱う伝統産業や伝統工芸は、産地ごと、種類ごとに学ぶ形式がとられてきたが、生活から伝統文化や伝統工芸を考えることで、日本文化のよさや特徴を実感しつつ愛好する心情を育てたいと考えた。

日本家屋の工夫には、紙や漆や土などの自然素材をうまく利用して日本の美が生まれていることを感じ取りやすく、また、自分たちの生活様式の変化から、伝統文化を継承する難しさや、だからこそ私たちが、伝統文化の良さを理解し、伝えていくにはどうしたらよいかを身近に感じることができると考え、鑑賞教材作成に取り組んだ。



① 日本建築鑑賞資料：「磯野家の生活と日本家屋」



- |                    |                                       |
|--------------------|---------------------------------------|
| ① 磯野家の図面           | ⑨ 漆喰                                  |
| ② 磯野家の1/40模型       | ⑩ 土壁                                  |
| ③ 継ぎ手              | ⑪ 越前瓦                                 |
| ④ 仕口               | ⑫ 障子 (棧の組み方例)                         |
| ⑤ 様々な木の種類に触れる木材セット | ⑬ 畳 (断面)                              |
| ⑥ 木の年輪             | ⑭ 織田清氏の日本建築プレゼンテーションデータ (事務局で預かっています) |
| ⑦ 木を組み立てる方法の一部例    |                                       |
| ⑧ 年輪               |                                       |

授業実践

木を扱う中学1年の授業の鑑賞時に使用した。現在では、「縁側」「床の間」がない家が大多数をしめ、漢字が読めない、意味がわからない生徒がいる。宮大工の仕事が途絶える前に、生徒に日本家屋の良さを知ってもらいたいとのことで、織田住建や近藤住建の方々、福井建設工事業協同組合の若手の大工さんの協力で、サザエさんの家を導入にして、日本家屋が扱う「木」「土」「紙」「漆」につながっていく教材となった。結果、継ぎ手などを実際に触ったり、年輪を数えたり、磯野家を見て縁側の役割を理解したり、生徒が主体的に活動し、感性を働かせる効果的な鑑賞資料となった。

## ② 越前漆器：「木と漆—時代を越えて使われる器」

- |                             |               |
|-----------------------------|---------------|
| ① 粗挽き→仕上げまでの行程の木地（3種類×3セット） | ④ 角物蓋付き生地 2個  |
| ② 塗りの10行程がわかる椀 3椀           | ⑤ 曲げ物蓋付き生地 2個 |
| ③ 角物生地 皿 2枚                 | ⑥ 曲げ物生地 2個    |

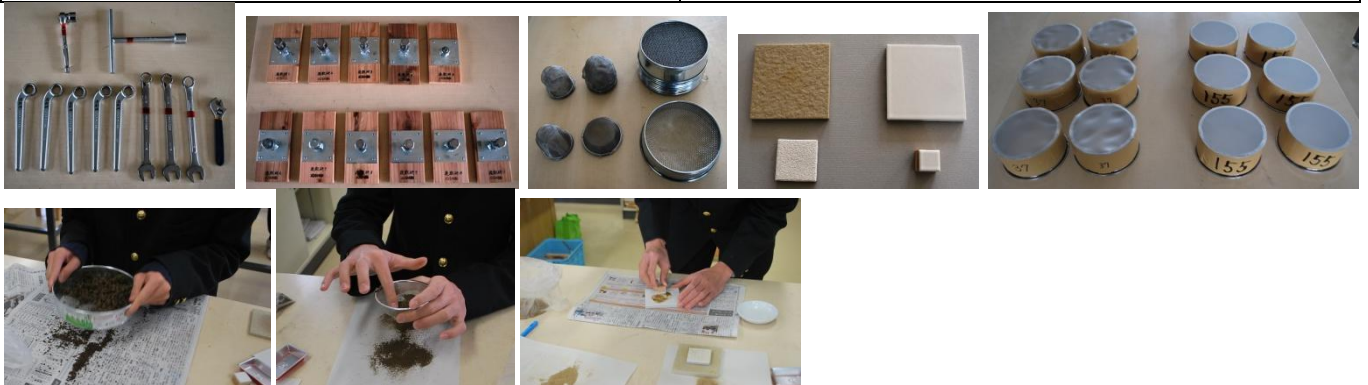


### 授業実践

中学2年が総合的な学習の時間の授業で越前漆器を調べた時は、知識でしかなかったが、越前漆器協同組合の服部さんを中心にして、職人さんから生徒に本物を持たせてほしいという思いで協力いただいた教材であることを知らせて、実際のお椀が生地から仕上げまでの過程を実際に手に取ることで、職人さんの思いが伝わる授業になったように思う。

## ③ 土：「顔料を自作して色を実感しよう—女子美術大学 橋本弘安先生監修 絵の具制作キット」

- |   |   |
|---|---|
| ① 粉碎器 11セット                             | ⑦ シチズン超音波洗浄機 2台                                       |
| ② 青色（ラピスラズリ）（藍銅鉱）になる原石見本（大1個）一瓶         | ⑧ 高儀兼定ダイヤモンド包丁両面砥石 #400 *#1000 1枚                     |
| ③ 緑色（孔雀石）になる原石見本（細かい小石状）一瓶              | ⑨ 金属板 2枚  |
| ④ 顔料の大きさを確認できるファイル資料3枚                  | ⑩ コヤスケ 1本   |
| ⑤ ふるい・・・研究部でプランクトンネットで自作したもの 7班分（ゴミ取り用） | ⑪ 電子ばかり 2台  |
| ⑥ 事務局で預かっている橋本弘安先生のデータ                  | ⑫ 顔料のサイズを分ける特殊なメッシュ<br>★顕微鏡レベルの拡大鏡 1台・・・別に貸し出すことができます |



### 授業実践

女子美術大学日本画学科の橋本弘安教授のご指導の下、自然の岩石を砕いて顔料を作成する40名対応の教具を一式作成した。土や小石から絵の具を作る体験は、小学生の低学年は、荒さの違うタイルで砂や土をすりつぶしてのりを入れて描く造形遊びの展開として扱い、高学年からは、レンチを使って小石を砕いて番数の違う篩で土の細かさをより分け、アラビアゴムや膠を入れて描くことができる教材セットにした。中学からは、ふるいの目を変えることで、日本画の顔料の色の違いを実体験できるようにして、絵の具の過程を理解する導入に用いた。土から絵の具作りで造形活動を終えた後、土が漆喰や土壁、瓦、焼き物、釉薬と日本の生活を彩ってきたことを鑑賞しながら、越前陶芸に触れた。土は、化粧品や焼き物などの生活の中に現在でも多く使われている身近な素材であり、日本の伝統文化と深くつながっていることを実感できる教材となった。

### （2）HP構築

福井県造形教育研究会のウェブサイトを持ち、これまで4年間の研究で蓄積してきた2百件あまりの授業データをウェブサイトに載せることができた。教師間で授業デザインをスピーディに共有し、図工・美術教育研究を進めていくことが期待できる。その結果、充実した図工・美術の授業を行え、地域の差をなくした感性の教育ができる。教具や鑑賞資料と併せて活用し、よりよい授業を展開していきたい。